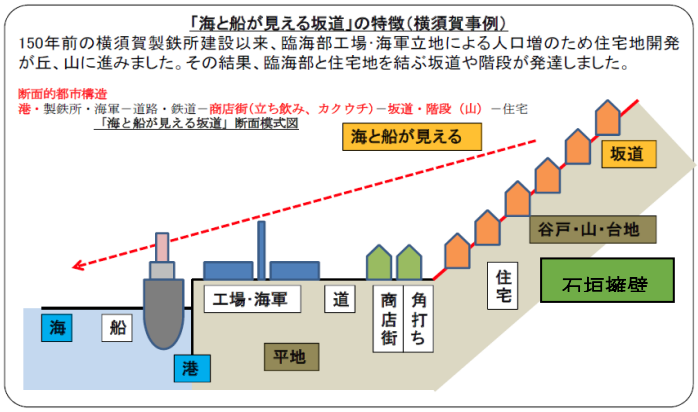
名前のある坂道の全国分布と「海と船が見える坂道」に関する考察
～みなとまちの地域資源としての活用可能性～

（正）吉田秀樹（八千代エンジニヤリング）

1.　まえがき

近年の観光・街歩きの中で地形・坂道に焦点を当てたものが増えている。港町には坂道がたくさんあり、港の視点場・景観として重要な地域資源となり得る。一方全国的な名前のある坂道や港町の坂道についてまとまった調査がなされていない。坂学会等既存資料を元に全国の名前のある坂道について分析するとともに、筆者の提唱する「海と船が見える坂道」（以下「みなと坂」とする）[1]の全国的な有無や活用状況を調査し、地域資源として活用方法を提案した。



図－１　「坂道」と「石垣擁壁」の断面模式図

2.　名前のある坂道とみなと坂

東京には名前のある坂道が多数存在する。理由は、俵によると江戸時代、町名は全体の２割しかない町屋に存在し、８割の武家屋敷等には町名はないため坂名を地名として利用したためである。戦後昭和 45 年千代田区、昭和 47 年度から港区、文京区が坂標を設置したとある。[2]

みなと坂は、図－１の断面模式図に示す坂道で、筆者により提唱され 2012 年より港湾関係団体メールマガジンで連載配信されている。[3]

3.　既往の研究と本研究の必要性

名前のある坂道については東京など関東を中心に調査まとめられているが、全国的にまとめられているものは在野の坂学会 [4]や坂道散歩 HP[5]しかない。また学術的には傾斜地 [6]や景観・視覚 [7]に関する研究のみである。

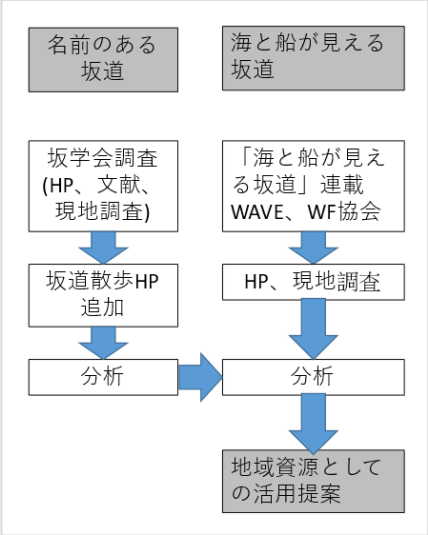
みなと坂については、筆者 [8]によるものだけである。また、港町の坂道に関する研究も地域特性に関するもの [9]だけである。

名前のある坂道の全国調査のまとめを行うことによりさらに全国の調査が進むと期待される。また、みなと坂については他自治体の情報を知ることにより「坂道」に焦点を当てた地域振興が進むと思われる。

4.　研究の手法（図－２）

名前のある坂道については、坂学会 HP の全国坂のプロフィール [4]（基本的に、公的文献・マップ・HP、現地調査結果を掲載）を中心に集計し、坂学会 HP にない市町村については坂道散歩 HP[5]から（掲載写真で確認）追加し分析した。なお、四国４県については坂道散歩 HP からの集計は市町村が特定できなかった。

みなと坂については、筆者の現地調査を元に作成されたみなと坂連載記事と各自治体 HP 及び現地調査から分析した。なお今回の調査ですべての市町村を対象にして調査しているわけではないのでさらに地道に調査する必要がある。



図―２　研究フロー

5.　名前のある坂道の調査結果と分析

①全国集計結果（表－１）

全国区の市町村の中で名前のある坂道は453 市町村、全体の約 25%である。坂道数は3,791 坂である。また坂標については坂道全体の約 45%の 1,684 坂にあることがわかった。坂学会は関東等大都市に集中し地方の市町村も多い。一方、坂道散歩は市町村数の割には坂道数、坂標の割合は少ない。

表―１　全国集計結果

	名前坂道有り			坂標有り	
	市町村数	割合(%)	坂道数	坂道数	割合(%)
坂学会	273	16	3,411	1,610	47
坂道散歩	180	10	380	74	19
合計	453	26	3,791	1,684	44
全市町村数=1,741					

②港町との関係（表－２）

市町村の中で、港町や沿岸に面すると判断した市町村は112 市町村で全体の６％程度であった。また河川沿いの湊･河岸と考えられるのはさらに少なく 28 市町村２％弱であった。

さらにその中で明らかに港町、川湊の中に坂道があると判断できるものは、43 市町村、3%弱しかなかった。

表―２　港町との関係

都市の性格	市町村数	割合(%)
港・沿岸市町村	112	6.4
川湊・河岸市町村	28	1.6
港町に坂有	43	2.5

③市町村別集計（表－３）

坂数は横浜市が最も多いが坂標では東京 23 区が多い。

浜松市、熊本市等は坂数は多いが坂標は少ない。坂数については地元で坂道をまとめた書籍等があることが多い。

坂標は東京 23 区が多く､愛川町や福島町が多い。東京 23 区については昭和 40 年代に設置するなど坂標設置に熱心である。福島市は飯坂温泉観光振興のため設置している。愛川町は坂道すべてに坂標を設置している。

表―３　市町村別集計 Best10（坂道数、坂標数）

順位	都道府県	市町村	**坂道箇所数**	坂標個所数
No.1	横浜市	横浜市	**231**	149
No.2	東京23区	港区	**126**	87
No.3	東京23区	文京区	**123**	83
No.4	静岡県	浜松市	**112**	11
No.5	東京23区	新宿区	**109**	87
No.6	熊本県	熊本市	**97**	25
No.7	神奈川県	相模原市	**91**	39
No.8	神奈川県	座間市	**82**	26
No.9	長崎県	長崎市	**78**	11
No.10	東京都	調布市	**77**	1
		両方に該当		

順位	都道府県	市町村	**坂標個所数**	坂道箇所数
No.1	東京23区	港区	**87**	126
No.2	東京23区	新宿区	**87**	109
No.3	東京23区	文京区	**83**	123
No.4	東京23区	千代田区	**56**	66
No.5	東京23区	大田区	**48**	55
No.6	東京23区	北区	**45**	62
No.7	神奈川県	愛川町	**42**	42
No.8	福島県	福島市	**40**	47
No.9	神奈川県	相模原市	**39**	91
No.10	石川県	金沢市	**30**	53

④坂道の性格（表－４）

坂道の性格を分析するため５坂以下の市町村について集計した。その結果、街道・道路の中で名前がついている坂、寺社への参道に対し名前がついている坂が多いことがわかった。坂は、語源が「境」から来ていることから [2)]街道の集落の境界の坂、集落の中心の寺社への目印の参道として名付けられていることが多いことがわかる。

表―４　坂道の性格（５坂以下の市町村対象）

	市町村数	**海船坂有**	**坂道の性格**				
			寺社	城	街道道路	家・目印	登山道
坂学会	171	8	42	9	34	7	10
坂道散歩	169	2	21	2	134	9	0
合計	340	10	63	11	168	16	10
割合:%		3	19	3	49	5	3

6.　みなと坂の調査結果

①調査対象港湾（表－５）

「海と船が見える坂道」の連載、HP 調査、現地調査、名前のある坂道調査等からみなと坂がある港湾等を 50 ヵ所選んだ。港湾として発達した時代と港格等で分類した。**（表－５）**ただし、東京及び大阪にはみなと坂はないが対象に追加した。

表―５　海と船が見える坂道調査対象港

	近世	近世+近代	近代	その他
重要港湾	佐渡小木、鞆の浦(福山)、平戸	函館、八戸、酒田、塩釜、東京、衣浦、伏木富山、敦賀、舞鶴、大阪、神戸、三原、尾道、下関、三津浜(松山)、長崎、那覇	小樽、室蘭、大湊、横浜、横須賀、呉、広島、北九州、佐世保	別府
地方港湾	江差、松前、赤泊、下津井、竹原、厳島	三国	相生	湘南、真鶴、熱海、日出、杵築、臼杵
その他	佐渡宿根木、大長			逗子、七里ガ浜、佐渡相川、男木島

②みなと坂と名前有り坂道との関係（表－６）

みなと坂と名前有り坂道との関係を**表－６**に示す。両方に該当する坂道がある港湾が 20 港、全体の４割、両方に該当しない港湾が 20 港、全体の４割あることがわかった。坂標が無い港湾となるとさらにその割合は多くなる。このことから港の視点鳩なるみなと坂を認識せず有効に利用していない市町村が多いことがわかる。

③みなと坂のみなとまちの振興への活用状況（表－７）

名前有り坂道市町村（港湾）のみなと坂活用状況を観光者向け、市民向けに分けてまとめたものを**表－７**に示す。濃い着色は取組として印象に残った港湾である。あくまで筆者が HP、現地踏査で収集した情報である。

全体として、パンフ等に坂道を掲載している港湾は３割に満たない。さらに市民向けに坂道を PR している港湾は１割程度である。今後各港町の自治体で坂道を活用した取組が必要である。

④港町の坂道に対する先進事例紹介

これまでの港町での坂道に対する取組で印象に残った事例を紹介する。

最も進んでいるのは函館港である。全般に北海道の港は坂道の観光への利用が進んでいる。

・観光パンフレット（写真－１）

函館のパンフレットがよい。特に各坂道がパンフレットに赤線で標記されている。

・坂標（写真－２）

函館、大湊の坂標がよい。坂上と坂下に写真のような坂標が設置されている。函館については、坂名の由来も日本語・英語で説明されている。

・坂道パンフレット・マップ

大湊、八戸、衣浦、横須賀等で作成されている。八戸、衣浦については地元自治会・市民団体で作成されている。

・坂道の市民向け広報

小樽市では市報で坂道を連載し、現在でも HP で閲覧できる。

⑤新しい動き（写真－３）

港町において坂道に関し新しい動きがある。「坂のまち神戸プロジェクト」[10]である。これまで神戸ではパンフレットから坂名が消えるなど、やや坂道に関する広報が後退していたが、2024 年度より上記プロジェクトが動き出した。市民を巻き込んだ市全体としての取組である。

表―６　みなと坂と名前有坂道との関係

			市町村数			市町村割合		
			名前有	名前なし	合計	名前有	名前なし	合計
「海と船が見える坂道」	坂道有	名前有	20	0	20	40	0	40
		名前なし	10	20	30	20	40	60
	合計		30	20	50	60	40	100
					単位:市			単位:%

			市町村数			市町村割合		
			坂標有	坂標なし	合計	坂標有	坂標なし	合計
「海と船が見える坂道」連載	坂道有	名前有	17	3	20	34	6	40
		名前なし	7	23	30	14	46	60
	合計		24	26	50	48	52	100
					単位:市			単位:%

表―７坂道の広報等への活用状況（名前あり港のみ）

地域	港湾名	坂道関係			観光客向け			市民向け	
		名前有り坂道有り	海と船が見える坂道有り	坂標	自治体HPに坂道	観光パンフに坂道	街歩きパンフ	坂道パンフ	広報
北海道	小樽港	○	○	○	○	○			○
	室蘭港	○	○	○					○
	函館港	○	○	○	○	○	○		
	江差港	○	○	○		○			
	松前港	○	○	○		○			
東北	大湊港	○	○	○	○		○	○	○
	八戸港	○	○	○				○	○
	酒田港	○	○	○		○			
	塩釜港	○	○名無し				○		
関東	東京港	○		○	○	○	○		
	横浜港	○	○	○	○	○			
	横須賀港	○	○	○			○	○	
	真鶴港	○	○		○	○	○		
中部	熱海港	○	○	○	○				○
	衣浦港	○	○	○	○			○	
北陸	佐渡相川港	○	○		○				
	佐渡宿根木	○	○名無し		○	○	○		
	新潟港	○	○名無し	○	○		○	○	
	三国港	○	○名無し	○		○			
近畿	大阪港	○		○	○	○	○	○	○
	神戸港	○	○	○	○				○
中国	呉港	○	○				○		
	三原港	○	○	○			○		
	尾道港	○	○名無し	○	○				
九州	北九州港	○	○	○					
	平戸港	○	○	○	○				
	長崎港	○	○	○	○	○	○		
	佐世保港	○	○名無し						
	別府港	○	○名無し	○					
	杵築港(守江)	○	○名無し	○	○	○	○		
	臼杵港	○	○名無し	○	○	○	○		
沖	那覇港	○	○名無し	○	○				
	該当数	32	30	24	19	14	14	6	7
	割合%	62	58	46	37	27	27	12	13

写真―１　函館観光マップ

写真―２　大湊港の坂標

写真－３　神戸の事例

7.　みなとまちの地域資源としてみなと坂を活用するための方策提案

全国の名前のある坂道調査、みなと坂に関する調査から、みなとまちの地域資源としてみなと坂を活用したみなとまち振興フローを提案する。（図－３）

①市民に坂道の地域資源としての認識を高める

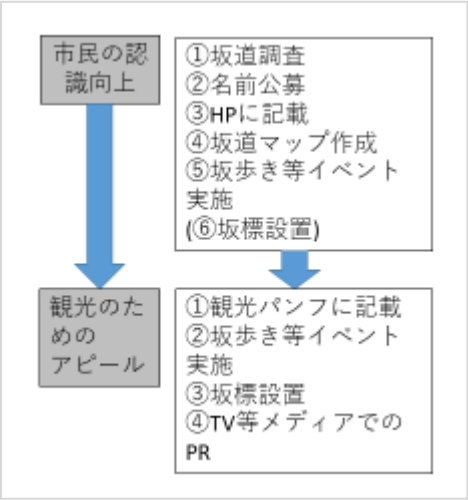
名前があればそれを広める。なければ文献を調査する、もしくは公募して名前をつける。その後マップを作成し市民向け坂歩きを実施する。

例えば､神戸港の場合はパンフ作成や坂標設置が必要である。

小樽港の場合は小樽駅からクルーズターミナルに向かう大通りの坂道を命名することがである。

②地域資源としての坂道の観光に向けた PR

観光パンフへの記載、坂標の設置、坂歩きを含む街歩き等を実施する。



図―３　坂道活用の提案フロー

8. おわりに

坂道について全国多数あるにもかかわらず、これまで学術的に全国調査はなされていない。地域の在野の研究者により趣味程度になされているのみである。それでもその結果をまとめつつ地域資源として活用する方法を提案できればと、特に坂道がよい視点場となり得るみなとまちで活用方策を提案した。みなと坂を調べるきっかけは、北九州で初めて意識し、横須賀でさらに調査し発展していった。

今回の調査で全国のすべての坂道について網羅したとは考えていない。さらに現地踏査や HP、文献調査で研究を進めていきたい。

参考文献

1)吉田秀樹.2015:みなとまちの地域資源である「海と船が見える坂道」に関する研究,国土技術政策総合研究所資料第879号
2)俵元彦,1985:俵アーカイブ　坂道の発生－東京の坂道の歴史的検討,坂学会HP
3)吉田秀樹,2012.10～2016.12:ウォーターフロント協会メールマガジン,2017.2～みなと総研賛助会員ニュース
4)坂学会HP　全国の坂プロフィール　http://www.sakagakkai.org/profile/list-japan.html
5)坂道散歩HP　歩いた坂一覧　http://sakamitisanpo.g.dgdg.jp/sakamei(toukyou23ku).html
6)松本直司,2006:期待感の強さと坂道空間構成および視覚的効果,日本建築学会計画系論文集第604号PP53-59,2006年6月
7)杉山和一,2003:傾斜度に着目した九州地方における都市の比較分析,土木構造・材料論文集第19号2003　年12月
8)吉田秀樹,2016:港町の地域資源である「海と船が見える坂道」の特性に関する一考察,日本沿岸域学会2016年度研究討論会
9)平井信夫,1996:斜面市街地を有する港湾都市の地域特性と整備課題,日本沿岸域学会論文集,pp,91-103,1996年3月
10)神戸市,坂のまち神戸プロジェクト　https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/saka.html